

幸手市立さくら小学校の取組

幸手市立さくら小学校(岸千里校長)は、平成十七年に旧幸手東小学校と緑台小学校が統合してできた、市内で最も新しい小学校です。多くの児童が在籍する本校において、いかに個の学びを保障していくが考えながら、日々教育活動に取り組んでいます。十月二十日(水)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介します。

「一人一台端末ならでは」の協働学習

今年度から本格的に始まった一人一台端末の活用。七か月が経過した現在、市内各小中学校において、「幸手市GIGA未来教育推進プロジェクト」の「すめる」のフェーズから「つながる」へ移行してきています。



グランドデザイン

この日参観した学級では、五年生の社会の授業で、Teamsを活用していました。この時間、児童に身に付けさせたいことは、「工業の種類、工業の盛んな地域の分布などに着目して、工業生産の概要を捉え、表現すること」でした。



次に児童は、自分の担当の箇所を教科書や資料集から調べ、入力を行っています。3〜4人の小グループごとに担当の工業地帯が違うため、児童一人あたりに割り当てられた範囲はそこまで多くありません。

最後に、各グループで調べた内容を端末上で見合い、比較することで、それぞれの工業地帯の特色に注目して学んでいきます。この授業展開の最大の利点は、「全ての児童の考えが、確実に反映される」という点です。一人一台端末による協働学習を基盤に学習が進んでいくので、共通のデータ上に入力内容が瞬時に反映されていきます。また、一人では考えが表現できない児童も、同じグループの児童が記入した内容を見て参考にすることができます。

このような「一人一台端末ならでは」の協働学習が、今後一層推進されることで、「つながる」「ふかめる」のフェーズへと、よりスムーズに移行していくことが期待されます。

支援と評価にも

一人一台端末は、支援や評価の場面でも有効に活用できます。

先ほど紹介した五年生の社会の授業では、先生が、教師用端末で児童の学習経過を確認しながら机間指導をしていました。教師用端末の画面上に、常に児童の学びの様子が反映されているため、学習が止まっている児童のところに支援していくことができます。



また、六年生の保健の授業では、授業の最後に、児童がこの時間で分かったことを入力する時間を取っていました。これを継続して行っていくことで、児童の学びの足跡をクラウド上に残すことができます。児童は、自分の成長をいつでも確認できますし、教師は、児童がどのような学びを深めていったかを見取り、評価へと繋げていくことができます。支援と評価にも、一人一台端末を有効に活用している、さくら小学校でした。

幸手市立八代小学校の取組

幸手市立八代小学校では、富澤敏夫校長のもと、ゲストティーチャーの活用や一人一台端末を活用するための、授業外の取組の充実を図っています。十一月一日(月)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介します。

ゲストティーチャーの活用

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、今後一層、予測困難な時代を迎えることになると言われていきます。そんな時代を生きていく児童生徒に身に付けさせるべき資質・能力は多様であり、教師に求められるスキルも変わってきています。当然、教師が常に学び続けていくことが重要ですが、地域や社会の人材を、学校教育に上手に取り入れていくことも考えていかななくてはなりません。学校と地域・社会とが連携・協働を推進することで、子供の生きる力を育てていく。その一つの例が、八代小学校で見られました。行っていたのは、令和二年度から始まった、プログラミング教育についてです。必修化されましたが、どの場面でも、どのような指導をしていけばよいのか難しいという声が、全国から挙がっていました。

そこで八代小学校では、「LINE entry」の無料講師派遣サービスを活用していました。「LINE entry」とは、LINE株式会社が無料で提供している、プログラミング学習プラットフォームです。学習指導要領に準拠した多様な学習コンテンツがあり、パソコンやタブレットがあれば誰でも学ぶことができます。また、LINEが認定するプログラミング教育の専門講師が、無償で全国各地の学校を実際に訪問し、サポートしてくれます。



コロナ禍のため、オンライン授業にも対応しています。

参観した五年生の算数の授業では、遠隔にいる専任講師からの指示を受け、児童一人一人が意欲的に学ぶ姿が見られました。「正六角形を描くにはどんなプログラムを組めばよいのだろう」、「正三角形を描きたいが、『六十度回転』のプログラムにする」と描けない・・・と思考をフル回転して取り組んでいました。

工夫を凝らした授業外の取組

八代小学校では、小規模校だからこそできる、「全員でつながろう!生かそう!ICTプロジェクト!」として、以下のような授業外の取組を行っています。

- ・タブレットタイム  
タブレットを使用した自主学習時間です。ミライシードのドリルパークを使用した国語・算数の取り組みの確認と強化をしています。学力向上に向けた学習に加え、自宅での取り組みの確認をし、適切に課題に取り組んでいるかの確認もしています。また、持ち帰りを続けているタブレット本体の保全・保管状況の確認やペンや充電器の紛失防止確認にも充てています。
- ・オンラインタイム  
全校でチームを作成し、今後の臨時休校や長期休暇に備えて接続確認をしています。アクセラス集中を防ぐためのログイックや、接続環境を良好に保つためのテストを全校児童と共にしています。放課後にも、学級チームで担任やクラスの仲間と復習をしたり、「ミニユニケーション」を取り合ったりする時間も設けています。



児童集会(八代つ子学校クイズ大会)

オンラインタイムで確保したチームス環境を利用して、代表委員会主催の児童集会を開催しました。一人一台、自分の目の前のモニターで繰り広げられる「八代つ子学校クイズ」を全校で楽しむことができました。実施する際には、万が一の接続環境の悪化に備え、教師用タブレットを教室の拡大モニターに繋ぎ、全員が共有できるように配慮しました。音声も、このモニターから出力することで、聞きとりやすくなることができました。この他にも、講話朝会や保健委員会の発表などを実施しています。



正多角形を